

平成28年度 大町岳陽高等学校 学校自己評価表

学校教育目標	重点目標	具体的な目標	
1 進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。 2 真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。 3 国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。	1 学力向上と学習指導の充実 2 生徒指導の充実 3 大町岳陽高校の基盤作りの推進	1-① 授業の充実を図り、自主的な学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。 ② 生徒自らが気づき・考え・実行する場面を設けるとともに、積極的に知的活動を行う力を養う。 ③ 多様な進路希望に対応するための研究と対策を行う。 2-① クラブ活動・生徒会活動など自主的活動の支援をする。 ② いじめについて職員・保護者・生徒の理解を深め、その対応に努める。 ③ 体罰についての認識を深め、根絶をするとともに、生徒の指導の充実を図る。 3-① 行事等の基本的な方針や運営を確立する。 ② 中学生・保護者・地域に向けた学校公開・情報発信を充実する。	
	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の記号	
教務	1 教育活動の円滑な運営を図る。 2 新たな問題について、職員の意向を把握し、円滑な対応をする。	1-① 2-① 3-①、②	1 大町岳陽高校の学校運営の基礎固めを図る。 2 体験入学、公開授業などを通し、きめ細やかな情報発信の機会を設ける。
生徒指導	1 諸規則の徹底と指導 2 安全指導 ①交通安全②環境保全③性被害防止 3 相互信頼関係の確立(生徒会活動・クラブ活動等・いじめ防止他) 4 他機関等との連携(保護者との連携、必要に応じて外部組織との連携、他) 5 特別支援に関する理解と支援の充実(研修会参加、具体的な支援策の研究)	1-② 1-② 2-② 2-②	① 身だしなみ(頭髪や制服着用)や節度ある生活態度の育成(上下履き)※学年生指と担任の連携。校風委員会との連携 ② 交通マナー、免許取得指導 ③ 性被害防止・情報モラルに対する指導 ④ 相談室の実用化と生徒情報の共有 □
生徒会	1 各種行事の生徒による自主的な企画と運営 2 活動と行事を通じた生徒の実践力とコミュニケーション能力の育成 3 伝統の継承と、新たな活動の導入 4 HRや他機関との連携による、日々の委員会活動・クラブ活動の活性化	1-② 2-① 3-①②	1 自主性に富み、問題解決に積極的に取り組む生徒を育てる。 2 豊かな人間関係を育成し、社会的マナーと資質を高める。 3 学年間の縦のつながりを大切にし、本部・役員の指導力を高め、新旧交代を円滑に行う。 4 生徒総会および委員会活動を活発にする。 5 クラブの適切な運営と活動の充実を図る。 6 行事を通じて学校生活の充実を図る。 ア 自主的・民主的な企画と運営 イ 目的の明確化・共有化 ウ クラス活動の活性化と地域社会への発信 エ 帰宅時間・ルールの遵守と事故防止 オ 移行期における行事のあり方の検討・実施
人権教育	憲法や教育基本法、子どもの権利条約等の精神に基づき、基本的な人権が保障される民主的で平和な社会を形成するため、あらゆる差別や戦争等も含めた人権侵害を許さず、それらの問題を解決していく意欲と実践力をもった生徒の育成を目指して行う。	1-② 2-② 3-②	1 基本的人権のあり方や差別の実態、戦争の真実について知り、科学的理解を深めさせる。 2 差別されたり疎外されたりしている人や、戦災や飢餓、貧困や社会的不平等に苦しんでいる人の立場に立ち、その心の痛みに共感できる感覚を養う。 3 身の回りにおける人権侵害や差別、偏見などを認識する力を養い、それらを是正していく姿勢を身につけさせる。 4 世界には、また自分の周囲にも、人種・民族・国籍・性差・信教・思想信条・障がいや病気の有無・経済状況等々が異なるさまざまな人々がいることを認識させ、お互いの存在を尊重する意識を育てる。 5 アジア・アフリカ難民支援活動などを通して世界の現状を知り、周囲の人々との助け合いや国際連帯の重要性を認識させる。
進路指導	生徒自身が、自己認識・社会認識を深め、自主的・能動的に自らの将来像を設計できるように組織的・継続的に指導・支援を行う。そして3年間の高校生活の中から自立した社会人への基盤の総合的な構築を目標とする。	1-①②③ 3-②	1 キャリア教育の充実： きめ細かいキャリア教育を通して、生徒が自らの能力・適性を発見し、社会的関心を深め、国際的な視野を広げて、主体的な進路決定が出来るように支援する。 2 多様な進路希望の実現： 生徒の多様な進路希望実現のために、伸びる力を最大限伸ばし、早期から具体的な目標を持たせ学力の向上を図るとともに個に応じた丁寧な学習支援・進路指導を組織的に行う。
学習指導	生徒の一人一人の人格の完成をめざしつつ、多様な「進路希望の実現」に対応できる学習指導体制の確立を目指す。	1-①、②、③ 3-①	1 土曜補習の全体計画及び学年間で連携をとった実施。 2 進路希望の実現に向けての平日・長期休業補習の実施。 3 岳陽塾・岳陽アカデミーを活用した学習支援の検討。 4 移行期の生徒への学習支援体制の充実。
保健	1 安全で、健康的な学校生活を送れるように環境整備や疾病の早期発見と自主自立的な健康管理ができるような保健指導を行う。 2 開放的な保健室運営をし、相談活動を行う。 職員相互の連携をとり、諸課題について検討し解決に向けて協力する。	2-①②③ 3-①②	1 健康診断、日常の健康観察から疾病を早期に発見し、早期治療に結びつける。 2 相談活動については、状況・情報等を共有し、お校内外の関係者と早めの対応を行う。 3 感染症等については、早期に情報共有し、最悪を想定しながら、慎重に、迅速に、誠実に、組織で、対応する。
清掃	1 生徒各自が環境への理解を深め、地域でも活動できる積極性を養う 2 ゴミの減量化や分別に取り組む 3 教育活動の場にふさわしい環境で日々快適に活動出来るように校舎内外の美化に努める	2-①② 3-①②	1 生徒、職員全員で校舎内外の清掃美化に努める 2 ゴミの分別処理・減量化に努め環境への理解を深める 3 街路清掃活動を通して、地域の一員として環境美化や奉仕の心をはぐくむ
図書館	1 学習センターとしての役割を果たす 2 情報センターとしての役割をはたす 3 気持ちの安らぐ場を提供する	1-②	1 課題研究や総合的な学習などとおして、情報活用能力を身につけさせるための指導 2 著作権に基づいた情報利用の周知と推進 3 図書委員会活動の活性化 4 統合後の図書館資料の整理 5 他の図書館との連携 6 図書館を利用する授業に対応できるよう、図書館資料や図書館用品を充実
視聴覚	1 視聴覚教育に関する情報提供を行う。 2 視聴覚室、視聴覚機器の管理を行う。 3 中信高視研会計監査、芸術鑑賞地区理事を担当する。	1-①② 2-①	視聴覚機器を利用した教育実践の研究会や研修会の情報提供。

係

	同窓会	大町岳陽高校同窓会の設立と生徒支援体制の確立を円滑に進める。	2-① 3-①②	1 各種会議に出席して、学校の近況を報告し同窓会と学校の調整をはかる。 2 同窓会による生徒支援内容の検討と依頼をする。 3 開校記念式典行事について検討し実施に参加する。
	P T A	会長を中心に、新しい組織の体制を確立する。より良い環境づくりのためにできるところから試行するとともに会員同士の親睦を図る。	2-① 3-①②	1 学年PTAや地区PTAなどで会員からの意見、要望を吸い上げ、より良い学校づくりに活かす。 2 文化祭などの行事に積極的に参加する。 4 研修旅行で、研修並びに相互の親睦を含める。 5 中信、県、北信越など各種のPTA連絡協議会に参加して、共同の輪を広げる。
教科	国語	1 国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 言語文化に接しながら、言語感覚を磨き、判断、評価する力、論理能力、類推能力を身につけ、感性豊かな人間性を涵養する。	1-① 1-② 1-③	1 生徒の実態に応じた適切な教材を選択し、必要とされる主体的言語能力と感受性を身につける。 2 系統的な論理的、心情的文章の読解学習を通じて、自ら考え進路実現に対応する応用力、実践力を育成する。 3 統合後の課題を明らかにする。
	地公	平和で民主的な社会の構成員としての自覚と資質を養うとともに、豊かな知性と国際的な視野を育む。	1-① 1-② 1-③	1 基礎的・基本的な知識の定着と探究心の養成をはかる。 2 生徒が主体的に学習できる方法を研究し、自主的精神に満ちた生徒の育成をはかる。 3 生徒の意見・感想を授業に生かしていく。
	数学	1 生徒の実態に合った指導を行い、学習習慣を確立させ、試験で通用する数学力を身につけさせる。 2 将来社会へ出て通用する数学的思考力や分析力、及び解析力、判断力をはじめ、知恵としての数学力を身につけさせる。	1-① 1-② 1-③	1 個々の生徒に対するきめ細かくわかりやすい指導 2 数学科通信による各種情報発信の充実 3 ネットワークを利用した数学科指導管理システムの活用 ①成績処理 ②テスト問題等 ③小テスト ④演習帳の点検⑤教材 ⑥課題 ⑦解答 ⑧連絡 4 新しい教育課程の入試の研究を行い、適切に対応する。
	理科	自然に対する関心や探究心を高め、実験・観察などを行い、自然の現象・事物についての理解を深める。	1-① 1-② 1-③	1 基礎科目（特に1,2年生）では、実験・観察を取り入れながら、科学に対する興味・関心が持てるような授業をする。また3年に向けて（発展科目に向けて）、基礎を定着させる。 2 3年生の発展科目では、センター試験対策の問題演習時間を多く取り入れる。昨年同様に補習も必要になってくるが、自学へ導く環境を作る工夫をする。
	保健体育	1 生徒の特性等を十分に考慮し、内容の決定、各内容の授業時数、単元の構成及び配列等を的確に定めた指導計画を作成し、実践する。 2 生涯を通じてスポーツに親しめる技術を養うため、選択体育を導入し自らスポーツ活動を実践できる力を養う。	1-① 1-② 1-③	1 集団の一員としての自覚とルールに沿った思いやりのある生徒の育成をめざす。公正な態度で仲間と接し、運動の楽しさを体験させる。 2 全生徒に新体力テストを行い個々の運動能力を理解させ、自己の能力に適した課題を持たせて運動に取り組ませる。 3 生徒や地域環境の特性に合わせた授業内容を作成し、課題設定の仕方や解決の仕方を考えさせ自主性を養わせる。
	音楽	1 音Ⅰ・Ⅱ・Ⅲー音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 2 音Ⅱー(1)に加え、芸術文化についての理解と、個性豊かな表現の能力・主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 3 音Ⅲー(1)(2)に加え感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。	1-① 1-② 1-③ 2-①	1 様々な音楽活動を通して、音楽に関する知識技能を高め感性を育む。 2 創造的な表現に必要な読解力、読譜力の習得を目指す。 3 実技において、表現の工夫を充実させる。 4 吹奏楽部の活動の充実。
	美術	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。	1-①②③	1 幅広い創造活動を通して、生活の中にある美しいものに気づかせ、美術に対する興味・関心を高めさせる。 2 自己の表現力・創造力を高められるよう、様々な表現の方法や技法を提示する。 3 鑑賞活動を充実させる。
	書道	1 書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と、書の伝統と文化を尊重する態度を育てる。 2 感性を磨き、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。	1-①②③	1 多様な書活動を通して、書に関する知識技能を高めるとともに個々の感性・個性を育む。 2 身の回りにある書を多く例に出し、書に対しての親しみや関心を高めさせる。 3 グループ鑑賞や自己分析・自己評価などを取り入れ、生徒主体の授業展開を目指す。
	英語	基礎力を定着させるとともに、英語を介してのコミュニケーションができる力を身につけさせる。また、異文化を理解する中で、日本人としてのアイデンティティを促す。	1-① 1-② 1-③	1 課題を課し、日常的にドリルや小テストを行って家庭学習習慣と基礎力の定着をはかる。 2 A L Tの活用により、日常会話を身につけさせる。 3 習熟度別でそれぞれの生徒に応じたわかりやすい授業を行う
	家庭	よりよく生きるために必要な知識技術を学ぶ。生活に関する事柄に関心を向け問題意識を持って主体的に学ぶことができるようにする。	1-①②	できるだけ身近な教材や実習を取り入れる。生徒に考えさせ、発表をする機会をつくる。
	情報	1 情報の収集・処理・発信などの情報活用能力を身につけさせる。 2 自ら課題を見つけ、情報技術を駆使して解決していく能力を身につけさせる。 3 情報技術を主体的に活用し、情報社会に主体的に参加する態度を身につけさせる。	1-①②	1 教科書の内容からコンピュータの特性や情報通信ネットワークの仕組みなどの基礎知識を身につけさせ、実習・演習をとおして定着を図る。 2 調べ学習を行わせ、その内容を発表させる。 3 社会の変化に応じた教材を取り入れる。
学年	1 学年	1 新たな伝統の礎を築く。 2 互いに認め合いながら支えあう。	1 2 3	① 基本的生活習慣の確立 ② 授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣の定着 ③ 進路を見通した基本的学力の構築と、発展的学習への挑戦 ④ ホームルーム・生徒会・クラブ活動など自主活動の充実と岳陽精神の涵養 ⑤ 挨拶の励行と自他を大切にコミュニケーション能力の育成
	2 学年	岳陽高校の中核として新しい良き校風の創造	1-① 1-②	クラブ活動・生徒会活動の中核として岳陽高校を盛り上げよう個々の進路希望を尊重しその実現に向けてお互いに協力しよう

	3学年	古き良き伝統の継承と新たなる学び舎の創成	1-① 1-① 1-②③ 2-① 1-③ 2-①	① 基本的な生活習慣の確立 ② 授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣の定着 ③ 進路を見通した基本的学力の構築と、発展的学習への挑戦 ④ ホームルーム・生徒会・クラブ活動など自主活動の充実と岳陽精神の涵養 ⑤ 挨拶の励行と自他を大切にコミュニケーション能力の育成
	学校保健安全	心身共に健康な生徒の育成	1-② 2-①⑤	1 保健管理（健康観察や健康診断等）と衛生管理（安全点検、環境衛生検査等）を充実させ環境を整える。 2 生徒保健委員会を通じて自他の健康に関心を持てる生徒を育成する。 3 関係機関との連絡を密にし、心身の健康上の問題点を明確化する。学校保健委員会を開催する。 4 保健講話の実施
	登山	1 全校生徒、職員の参加による安全登山を主眼とする。 2 実際に登山ができるできないにかかわらず、山に関する種々の指導をする。 3 本校職員に加え山岳部OB等の登山専門家に引率指導の協力を依頼する。 4 生徒のコース決定にはその希望を尊重すると同時に健康状態に留意し、無理のないようにする。 5 可能なかぎり職員の研修や登山コースの下見を実施する。	1-② 3-①②③	①安全登山という重点目標を達成するために、指導者のスキルの向上に努める。 ②事故防止を徹底するために、学校本部の仕事の内容を再確認し、各係りが効率よく機能する体制を整える。 ③特に1学年生徒に対しては、訓練登山や講習会をとおして全校登山への安全意識の高揚を図る。 ④メディアに対し積極的に情報を発信して、全校登山のPRを行い地域に情報を発信する。
	教育課程	1 今年度新教育課程の確認 2 28年度入学生の教育課程の検証 3 入学生徒の実態と適合確認	1-①, ③ 3-①, ②	1 新教育課程について、各教科で検討を行い、シラバスに沿った授業が展開されているか確認する。 2 28年度入学生教育課程の確認をし、講座編成について検討する。
	施設環境	校内の施設設備の改善および良好な職場環境の形成	1-① 3-①	1 新校舎への引越しを潤滑に行えるよう、事務室と協力しながら、計画的に進める。 2 職員室の配置等、各教科と相談しながら、教職員が快適に過ごせる環境を実現する。
委員会	理数科学究科運営	1 大町高校理数科の理念や目的を引継ぎ、新しい学究科の活動へつなげる。 2 2年理数科の課題研究では、これまでの自然科学分野の研究にとらわれず、人文科学分野の研究も行うことで、次年度の学究科の課題研究への準備を進める。 3 『中高生の科学研究実践活王動推進プログラム』に参加して積極的に地域や他の団体との連携を深める	1-② 2-② 3-① 3-② 3-③	■理数科学究科行事の運営 ①理数科講演会（東京工業大との連携） ②課題研究（東京工業大、山岳博物館との連携） ③校外実習・湿原自然観察会（2年：山岳博物館） ・自分のDNAを調べよう（2年：松本大学） ・センター実習（1年総合教育センター） ④科学コンクールなどへの出品 ⑤研究大会参加 ⑥信大と連携模索（体験学習・学校見学）
	校務分掌	校務の円滑な遂行のため、適材適所に努める。		1 新校になつての組織構成の見直し。 2 分掌負担の平準化。
	初任者研修	初任者研修が有意義なものとなるように校内の協力体制を構築する。	1 2	1 適切な研修計画の立案 2 初任者に対する適切な指導助言 3 校内における授業研究等の充実
	学校衛生	1 職員の健康の保持増進 2 安全かつ快適な職場環境作り	3-①	1 健康管理について 健康診断・ドック受診率100パーセントを目指す。職員の健康保持増進を図る。健康管理医を招聘し、専門的立場から指導助言をいただく。 2 職場環境について…メンタルヘルスが良好な職場（話し合える連携、仲間の支えあい、上司の理解意識、コミュニケーション、自分のことが語れる、明るく暖かい空間、同じ方向を向いている、つながり、緊張しない、挨拶、思いやり、お互いに知る）、安全点検
	教育サポート	本校生徒が、それぞれの特性や能力を十分発揮できるような支援体制をとっていく。そのために次の4項目を基本方針とする。 1 総合対策 2 相談支援体制 3 教職員研修 4 学校・家庭・地域・関連機関の連携	1-① 2-③ 3-①	1 支援が必要な生徒の状況を把握し、計画的、組織的に全職員で対応する。 2 校内委員会を定期的に開催し、支援が必要な生徒を早期に把握し、具体的な支援のあり方や保護者・外部機関との連携を推進する。 3 校内研修の充実と外部研修への参加を促す。 4 関係機関との連絡を密にして事前に対策・指導を行う。
	スクールセクハラ防止	セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等の防止	3	1 相談体制の周知と積極的な声かけ 2 職員研修の実施